

令和4年度 嬉野市教育委員会 活動状況評価シート

教育委員会の活動状況		教育委員会における自己評価				
具体的活動		評価	項目	項目ごと実績・成果・評価	課題・問題点	改善点
具体的 施策	(1)教育長としての役割等について	B	・総合教育会議について、市長部局へ開催を依頼する。また、市長と教育長・教育委員との意見交換の場を設定し、意見交換を行う。 ・本市教育推進のため、教育政策等を立案し実践化する。 ・市長に対し、教育行政の課題等について情報提供を行う。 ・教育委員へ教育行政施策の積極的提言と周知の徹底を行う。 ・大野原小中学校の「通学・留学」制度については、質の高い教育実践校であることを県外の市町に広報すると共に、関係部局と連携して取り組む。	・総合教育会議については、市長部局に開催依頼を行ったが、開催には至っていない。 ・前回作成された「嬉野市教育大綱」に従って、本市の実情に合った教育計画を推進中である。 ・大野原小中学校の「通学・留学」制度のPRを行い、令和3年度から移住している留学生1名を引き続き受け入れている。 ・市長に対して、「学力の現状と教育課題」について随時情報を提供している。 ・教育委員へ教育情報の提供を積極的に行っている。	・嬉野市教育大綱の見直しが必要かどうか総合教育会議で検討する必要がある。 ・大野原小中学校の留学において、移住・定住については関係部局と連携を取り支援していく必要がある。	・総合教育会議の実践化に向け、市長部局との連携に取り組む。 ・大野原小中学校の留学については、関係部局との調整を図る。
	(2)教育委員としての役割について	B	・教育大綱作成について、教育委員としての立場で意見を述べる。 ・市長と教育長・教育委員との意見交換の場を設定し、意見交換を行う。 ・教育行政施策全般についての問題点や課題を指摘し、自己の考え方や意見・思いを述べると共に、教育行政全般についてチェックを行う。 ・研修会等を通じ、教育課題について把握し、委員としての専門性を習熟し、資質と能力の向上に努める。	・前回作成された「嬉野市教育大綱」に従って、教育委員としての立場で活動している。 ・定例教育委員会等で、提案される施策について、教育委員個人の考えや思いを述べる事が出来ている。 ・社会教育委員との懇談会は感染症予防のため開催できなかった。 ・昨年度まで新型コロナウイルス感染症の影響により中止されていた教育委員研修会等が今年度は実施されるようになり、参加することができた。	・総合教育会議の中で、教育委員として積極的に意見を述べる事が課題である。 ・社会教育委員との定例的な意見交換の場を設定して、双方向からの情報の共有が課題である。	・総合教育会議の実践化に向け、市長部局との連携に取り組む。 ・リモートでの研修会等が開催できれば参加していきたい。
	(3)定例教育委員会会議の公開性の拡大と充実	C	・定例教育委員会への傍聴を、コロナ禍の状況を見て下記の①・②で行い、リモートでの傍聴については研究してみる。 ①市役所職員(新規採用職員を含む。)の傍聴 ②教職員(主幹・指導教諭)の傍聴 ・教育委員会終了後に傍聴者から感想及び教育課題についての意見を求め、必要により意見交換をする。	・今年度の会議傍聴については、感染症予防のため①市役所職員の傍聴は実施しなかった。②教職員については、学校で開催した際に傍聴を実施した。	・会議録のホームページ掲載は遅れている。できるだけ早く公開できるようにしたい。	・会議録作成が迅速にできるように作成ツールなどを検討し、迅速に公開できるように掲載内容の簡略化を検討していきたい。
	(4)教育委員への迅速な教育情報の提供や会議の招集	B	・教育委員に学校教育・社会教育並びに教育総務に関する情報を年間を通して迅速に提供する。 ・教育委員会会議を定例的に開催し、市役所以外の公共施設等でも開催する。 ・オンライン(ICT)を活用した会議開催の検討を進める。	・定例教育委員会時に予算や補正予算の情報、議会での一般質問事項の説明を行った。 また、社会教育分野においても事業計画を策定し、その都度情報の提供を行った。 ・教育委員会学校訪問の日程に合わせ、定例教育委員会を学校で開催した(2回)。	・学校施設等の改修状況など、国・県の動向を含めた説明を行うことが課題である。 ・オンライン(ICT)の活用の検討が進んでいない。	・緊急案件については、持ち回りや電話等で事前承認を得るなど情報提供の迅速化に努めた。 ・リモートでの会議開催を市の情報部局に支援を得ながら検討したい。
	(5)教育委員会と学校の協働意識高揚と課題の共有化	B	・「教育委員と教職員と語る会(トーク会)」で教職員との意見交換を実施し、教育現場の声を反映した教育行政の推進を図る。 ・「教育委員と教職員と語る会(トーク会)」のより一層の充実を図るため、教育委員も、コロナ感染防止に留意しながらトーク会のグループ(班)に参加し意見を述べる。 ・校長先生の知恵袋事業のプレゼンテーションへの参加や、成果発表会に出席し、学校の自立的経営について意見を述べる。 ・学校訪問時の「教育委員と教職員と語る会(トーク会)」で、市長部局の職員等の出席を求め、教育現場の声やトーク会出席者の意見を市の行政に反映させる。	・前年度出来なかった教育委員の学校訪問は、今年度は感染防止対策を講じながら実施することが出来た。 ・校長先生の知恵袋事業のプレゼンテーションに参加し、校長の特色ある学校経営について理解を深めた。	・トーク会での直接懇談・協議は行うことができなかった。教育委員にいろいろな方法で学校現場の情報を伝える体制作りが課題である。 ・校長先生の知恵袋事業は特色ある事業であり、限られた予算の中での特色のある学校経営の充実が求められる。	・リモートでの会議開催を市の情報部局に支援を得ながら検討したい。 ・議題によっては他の部署から協力を得られるように調整を図る。 ・今後も継続しながら更なる予算の獲得に努める。

<p>評価委員からの指摘事項・意見</p> <p>・教育長の嬉野市児童生徒・学校・地域社会(住民)に対する明確なPDCAサイクルのもと、教育委員会の組織・職員が、チームワークよく取り組まれていると高く評価する。自己評価はいずれも「B」であるが、評価委員会としては、「A」と評価する。</p> <p>・「統合教育会議開催には至っていない」とあるが、評価委員会は、「教育委員会への信頼の高さ」等が、その一因ではないかと考える。より「きめ細かな、そして、ひらかれた教育行政」という観点からも、改善点にある「統合教育会議の実践化に向け、市長部局との連携に取り組む」を期待する。</p> <p>・次年度(令和5年度)は、「教育新次代プラン・嬉野っ子ワクワクデザイン」の完結「不易と流行」のもと、屋台骨として変わらない・ゆるぎないもの、そして、時の流れを見極めて乗り遅れない・先取りしていくもの、この両者のバランスをきちんと図りながらの嬉野市教育委員会の取り組みに、さらなる期待をする。</p>	<p>評価結果(段階)</p> <p>A</p>	<p>指摘を受けての改善点</p> <p>・総合教育会議については、市長部局が開催計画をするところであるので、その実施についてお願いしていく。本市教育委員会においては、第2次嬉野市総合計画に基づく嬉野市教育大綱に沿って、「嬉野市の教育」を毎年策定し進めているが、市長に対して、「学力の現状と教育課題」について情報を提供しながら、より「きめ細かな、そして、ひらかれた教育行政」を目指し、市長と教育長・教育委員との意見交換の場を設定して、意見交換をして参りたい。</p> <p>・「教育新次代プラン」の5年目となる令和5年度は、目標達成にむけて取り組む最終年度となるため、教育現場の声を反映した教育行政の推進を図りながら各取り組みへの支援に努めたい。</p>	<p>評価4段階</p>	A 達成(80%以上)
				B ほぼ達成(51~79%)
				C やや不十分(50~21%)
				D 不十分(20%以下)